

# 産科

異 啓司

産科的合併症は経過が急で母体・胎児に重篤な異常をきたすことも多い。またそれ以外の合併症も、非妊娠とは異なる病像を呈したり妊娠経過に重大な影響を与えたりすることがよくある。近年、出生率の低下とともに妊娠出産年齢の高齢化等により、いわゆるハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっている。当院産科でもこの傾向は顕著であるが、異常なく経過した妊産婦だけでなく様々な合併症をもった妊娠にも、できるだけ自然なお産を体験してもらえるよう努力している。子宮内の胎児の状態はブラックボックスを扱うようなものであるが、胎児心拍モニタリング、超音波断層法、パルスドップラー法等により子宮内の胎児の状態を間接的にはあるが推測することが可能になってきた。新しい知識・技術を駆使して個々の症例に応じた適切な個別のリスク管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。また小児脳神経外科グループと協力して、水頭症など先天性中枢神経奇形をもつ胎児の出生前診断と治療を数多く手がけて日本周産期新生児学会で報告しているほか、AIDS診療拠点病院として、HIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

## 【2012 年度研究発表業績】

A-0

Chigusa Y, Tatsumi K, Kondoh E, Fujita K, Nishimura F, Mogami H, Konishi I : 「Decreased lectin-like oxidized LDL receptor 1 (LOX-1) and low Nrf2 activation in placenta are involved in preeclampsia」 : Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism. 97(10): E1862-1870. 2012.10

Atsuhiko Okagaki : 「Hospital Information System at Osaka National Hospital:Input/Output and Reference System Using FileMaker」 : Hospital End User Computing in Japan 50-70 Bentham Science Publishers IL,USA,Nov.2012.

Chigusa Y, Kondoh E, Mogami H, Nishimura F, Ujita M, Kawasaki K, Fujita K, Tatsumi K, Konishi I : 「ATP-Binding Cassette Transporter A1 Expression Is Decreased in Preeclamptic Placentas.」 : Reproductive Science. (Epub Dec 28 2012)

Kondoh E, Shimizu M, Kakui K, Mikami Y, Tatsumi K, Konishi I : 「Deciduositis can cause remarkable leukocytosis and obscure abdominal pain」 : Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 38(12): 1376-1378. 2012.12

Ueda Y, Kondoh E, Kakui K, Hamanishi J, Ueda M, Nishikawa A, Tatsumi K, Konishi I : 「Serial magnetic resonance imaging of placenta percreta with bladder involvement during pregnancy and postpartum: A case report」 : Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 39(1): 359-363. 2013 (Epub 2012 Jun 4)

Kobayashi F, Kondoh E, Hamanishi J, Kawamura Y, Tatsumi K, Konishi I : 「Pyomyoma during pregnancy: A case report and review of the literature」 : Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 39(1): 383-389. 2013 (Epub 2012 Jul 29)

Minamiguchi S, Mikami Y, Nakajima N, Salah A, Kondoh E, Tatsumi K, Konishi I, Haga H : 「Complement split product C4d deposition in placenta in systemic lupus erythematosus and pregnancy-induced hypertension」 : Pathology International 63(3): 150-157. 2013.3

A-3

近藤英治、巽 啓司、小西郁生 : 「膣壁裂傷 会陰IV度裂傷」 : 産婦人科手術シリーズOGS Now No.10 産科大出血 危機的出血への対応と確実な止血戦略 メジカルビュー 72-78,2012.4

伴建二、山田成利、松原尚子、種田健司、伊東裕子、岩見州一郎、八木治彦、岡垣篤彦、伴千秋 : 「当科で初回手術治療を実施した子宮内膜癌 168 症例の検討」 : 産婦人科の進歩 64:376-377,2012.5

近藤英治、巽啓司、最上晴太、藤田浩平、小西郁生 : 「帝王切開の術式とその工夫 “前置癒着胎盤に対する保存的治療法”」 : 産婦人科の実際 61: 859-866, 2012.6

植田彰彦、近藤英治、濱西潤三、山口建、巽啓司、藤原浩、小西郁生 : 「全身性エリテマトーデスの活動性と周産期予後」 : 産婦人科の進歩 64: 407-408, 2012.9

藤田浩平、巽啓司、近藤英治、千草義継、最上晴太、小西郁生 : 「妊娠高血圧腎症における神経栄養因子」 : 腎と透析 73: 707-711, 2012.11

岡垣篤彦 : 「ユーザーメイドシステムの費用対効果-大阪医療センターのカード型カルテ-」 : 第32回医療情報学連合大会論文集 124-127, 2012.11

岡垣篤彦 : 「最新液晶タブレットによる電子カルテへの入力」 : 新医療 2012年11月号 (No455) 132-136, 2012.11

巽啓司、福井好枝、津村麻衣子、山本美恵、田口弘美 : 特集婦人科がん「治療を継続するための患者指導・生活指導のポイント」 : がん患者ケア 6(3):43-48.日総研、2013年1-2月

### B-1

Chigusa Y, Kondoh E, Mogami H, Tatsumi K, Ujita M, Nishimura F, Fujita K, Konishi I : Disruption of Nrf2 signaling due to decreased expression of lectin-like oxidized LDL receptor 1 (LOX-1) is involved in preeclampsia. 18th International Federation of Placenta Associations Meeting、広島、2012年9月

Fujita K, Kondoh E, Tatsumi K, Chigusa Y, Mogami H, Konishi I : Maternal Endothelial Function Gradually Deteriorate in Normal Pregnancy. 18th International Federation of Placenta Associations Meeting、広島、2012年9月

### B-3

松原尚子、高橋悠里子、種田健司、伴建二、伊東裕子、岩見州一郎、八木治彦、山田成利、岡垣篤彦、巽啓司、伴千秋：婦人科悪性疾患のリンパ節転移における術前画像診断の有用性。第64回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

千草義継、巽啓司、西村史朋、藤田浩平、最上晴太、近藤英治、小西郁生：Preeclampsia の胎盤では、転写因子 Nrf2(NF-E2-related factor 2)の活性が低下している。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

植田彰彦、近藤英治、濱西潤三、山口建、巽啓司、藤原浩、小西郁生：全身性エリテマトーデスの活動性と周産期予後。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

多賀敦子、近藤英治、濱西潤三、清水操、角井和代、巽啓司、藤原浩、小西郁生：妊娠中に白血球増加と腹痛をきたし、腹膜面の著しい脱落膜変化が原因と考えられた 1 例。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

安本晃司、近藤英治、濱西潤三、山口建、川村洋介、大仲恵、巽啓司、藤原浩、小西郁生：バセドウ病合併双胎妊娠で、両新生児に相反する甲状腺機能異常を認めた一例。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

西川愛、近藤英治、濱西潤三、山口建、高松士朗、山ノ井康二、巽啓司、藤原浩、小西郁生：妊娠中に腸管子宮内膜症による回腸穿孔をきたし、診断と周術期管理に難渋した 1 例。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

古田希、近藤英治、濱西潤三、山口建、多賀敦子、渡邊のぞみ、巽啓司、藤原浩、小西郁生：常位胎盤早期剥離の分娩管理中に輸血関連急性肺障害を発症した一例。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012年4月

小林史昌、近藤英治、濱西潤三、山口建、江川絢子、野溝万吏、巽啓司、藤原浩、小西郁生：変性子宮筋腫に感染し汎発性腹膜炎を呈したが、手術療法により妊娠を継続しえた一例。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012 年 4 月

川村洋介、近藤英治、濱西潤三、山口建、藤田浩平、日下杏子、巽啓司、藤原浩、小西郁生：分娩後出血の治療法選択における造影 CT 検査の有用性についての検討。第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、神戸、2012 年 4 月

岡垣篤彦、是恒之宏、楠岡英雄：診療科のニーズに基づいてカスタマイズした電子カルテ記載欄の分析と標準規格との合致及び互換性について。第 16 回日本医療情報学会春季学術大会、函館、2012 年 6 月

岡垣篤彦：大手ベンダーの電子カルテを包括するユーザーメイドシステムの制作と運用。J-SUMMITS Special Seminar、仙台、2012 年 6 月

松原尚子、山田成利、伊東裕子、伴建二、紺谷佳代、岡垣篤彦、巽啓司：胎児期水頭症の診断と分娩と予後についての検討。第 48 回日本周産期・新生児医学会学術集会、埼玉、2012 年 7 月

川村洋介、近藤英治、濱西潤三、藤田浩平、最上晴太、巽啓司、藤原浩、小西郁生：分娩後出血の治療法選択における造影 CT 検査の有用性についての検討。第 48 回日本周産期・新生児医学会学術集会、埼玉、2012 年 7 月

近藤英治、多賀敦子、濱西潤三、藤田浩平、最上晴太、巽啓司、藤原浩、小西郁生：超低出生体重児の帝王切開時に胎盤への切り込みを避ける子宮底部横切開の有用性の検討。第 48 回日本周産期・新生児医学会学術集会、埼玉、2012 年 7 月

岩見州一郎、松原尚子、種田健司、伊東裕子、伴建二、紺谷佳代、山田成利、巽啓司、岡垣篤彦：子宮頸癌・子宮頸部上皮内癌の治療前子宮頸部細胞診の後方視的検討。第 52 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、東京、2012 年 7 月

種田健司、山田成利、松原尚子、伴建二、伊東裕子、紺谷佳代、岩見州一郎、巽啓司、岡垣篤彦：当院における子宮癌肉腫症例の検討。第 52 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、東京、2012 年 7 月

伴建二、伴千秋、松原尚子、種田健司、伊東裕子、岩見州一郎、紺谷佳代、山田成利、岡垣篤彦、巽啓司：当科における子宮体癌の初回手術治療（リンパ廓清）に関する検討。第 52 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、東京、2012 年 7 月

伴建二、松原尚子、種田健司、伊東裕子、紺谷佳代、岩見州一郎、山田成利、岡垣篤彦、巽啓司：  
当科での子宮体癌手術におけるリンパ廓清に関する検討。第 35 回日本産婦人科手術学会、京都、  
2012 年 9 月

岡垣篤彦：ベンダー製電子カルテの参照系を作成する-患者待ち時間調査アプリ-。Site Visits in 沖  
縄県立中部病院、沖縄、2012 年 11 月

岩見州一郎、松原尚子、種田健司、伊東裕子、伴建二、紺谷佳代、山田成利、巽啓司、岡垣篤彦：  
子宮頸癌・子宮頸部上皮内癌の治療前子宮頸部細胞診の後方視的検討。第 66 回国立病院総合医学  
会、神戸、2012 年 11 月

松原尚子、種田健司、伴建二、伊東裕子、紺谷佳代、岩見州一郎、山田成利、岡垣篤彦、巽啓司：  
婦人科悪性疾患のリンパ節転移における術前画像診断の有用性についての検討。第 66 回国立病院  
総合医学会、神戸、2012 年 11 月

岡垣篤彦：ユーザーメイドシステムの費用対効果-大阪医療センターのカード型カルテ-。第 32 回医  
療情報学連合大会、新潟、2012 年 11 月

岡垣篤彦：全病院診療科別ユーザーインターフェース実装への工程管理-大阪医療センターのユー  
ザーメイド開発-。日本ユーザーメイド医療 IT 研究会全国大会、岡山、2012 年 12 月

## B-5

多賀敦子、近藤英治、濱西潤三、西川愛、川村洋介、巽啓司、藤原浩、小西郁生：超低出生体重児  
の帝王切開時における子宮筋切開部位の検討。第 126 回近畿産科婦人科学会学術集会、大阪、2012  
年 6 月

古田希、近藤英治、濱西潤三、鈴木彩子、大仲恵、巽啓司、藤原浩、小西郁生：著しい外陰静脈瘤  
合併妊娠の一例。第 126 回近畿産科婦人科学会学術集会、大阪、2012 年 6 月

野溝万吏、近藤英治、濱西潤三、江川絢子、渡邊のぞみ、巽啓司、藤原浩、小西郁生：生児を得る  
ことができた自然隔膜破綻を伴う一絨毛膜二羊膜双胎妊娠の一例。第 126 回近畿産科婦人科学会学  
術集会、大阪、2012 年 6 月

岩見州一郎、松原尚子、種田健司、紺谷佳代、伊東裕子、伴建二、山田成利、岡垣篤彦、巽啓司：  
最近 5 年間の重複癌の臨床的検討。第 27 回大阪温知会総会、大阪、2013 年 2 月

B-7

千草義継、巽啓司、近藤英治、小西郁生：酸化脂質と炎症関連分子のヒト胎児発育における関与と喫煙の影響。喫煙科学研究財団平成 23 年度助成研究発表会、東京、2012 年 7 月

## 婦人科

巽 啓司

当院の婦人科診療の中心は「がん」であり、入院患者の多くは悪性腫瘍患者である。また大阪における子宮がん治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設として、世界婦人科連合（FIGO）の悪性腫瘍登録施設（わが国では5施設）の一つに選ばれている。また毎年日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録を行い、わが国における婦人科腫瘍診療の発展に貢献している。さらに、「がん患者の妊孕能や日常生活機能の温存」、「進行がん患者に対する化学療法を含めた集学的治療の効果」などを当面の課題として、手術術式の改良、手術適応の見直し、最適な補助療法の組み合わせの検討等を進めており、日本産科婦人科学会や日本婦人科腫瘍学会等での演題発表や論文作成を通じて、その成果を順次公表している。一方、子宮筋腫や卵巣嚢腫等の良性疾患も取り扱っており、これらの疾患の治療においても、術後後遺症の最少化、必要な機能の温存を第一義とした治療を旨としている。

※2012 年度研究発表業績は産科ページをご覧ください。